

**ニュースリリース**

報道関係各位

2014年10月8日

一般財団法人日本気象協会

**2015年春の花粉飛散予測(第1報)**

～前年に比べると東京や大阪は1.5倍以上に！～

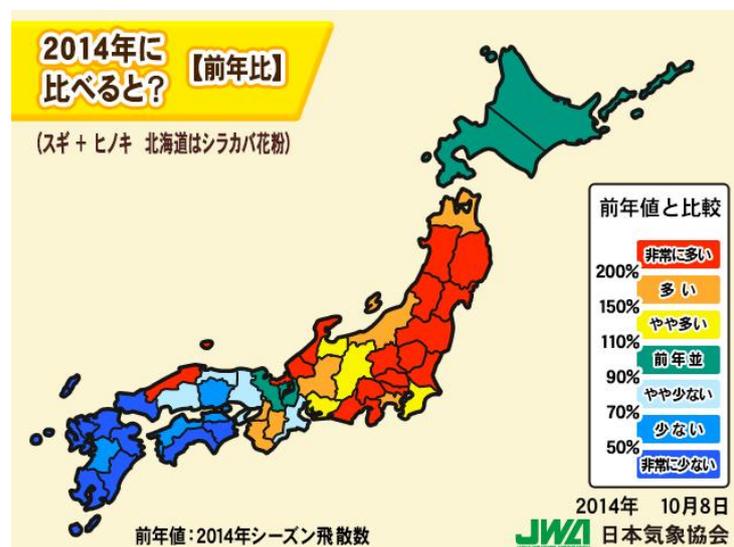
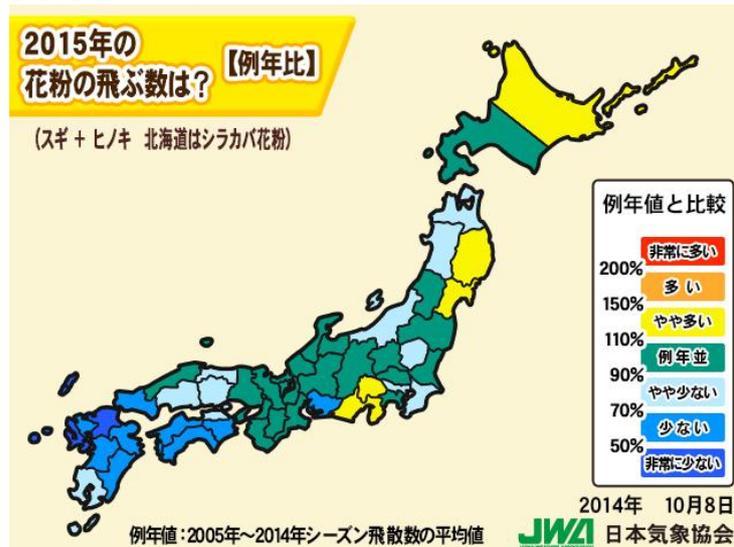
一般財団法人日本気象協会(本社:東京都豊島区、会長:縄野克彦)は、2014年10月8日(水)に全国・都道府県別の2015年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第1報)を発表します。また、詳細な情報を、「2015年春の花粉総飛散数 予測資料」として販売します。

この予測は、今夏の気象条件などを基に作成したもので、今後の花芽調査などのデータを基に内容を更新する予定です。

1. 全国予測の概況

(1) 例年並みでも油断禁物 近畿から東北は前年以上の花粉対策を

2015年春のスギ及びヒノキ花粉(北海道はシラカバ)の総飛散数は、九州と中国・四国のほとんどの地域では例年を下回るでしょう。近畿から北海道にかけては例年並みの所が多い見込みです。前年(2014年)の飛散数に比べると、九州と中国・四国は少ない所がほとんどでしょう。ただし、近畿から東北にかけては前年の飛散数が少なかったため前年よりも多く、特に関東や東北では非常に多くなる所がある見込みです。北海道は前年並みの飛散数になる見込みです。



## ニュースリリース

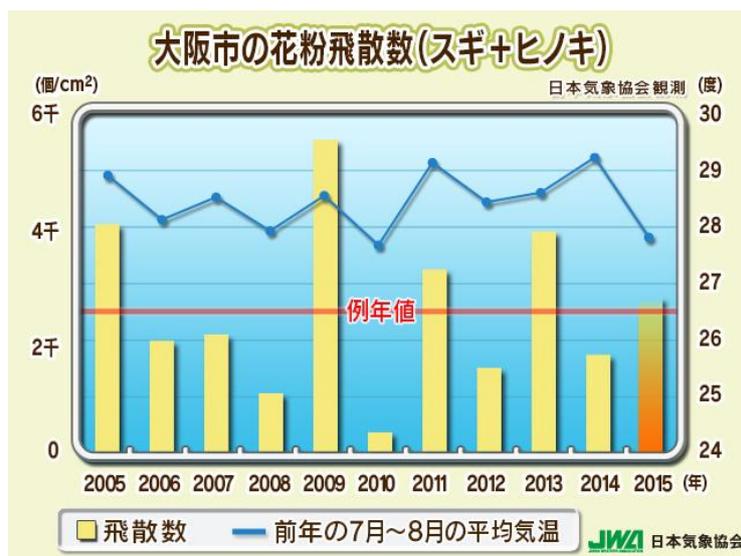
### (2) 2014 年夏の天候と飛散数の推移

花粉の飛散数は夏の気象条件が大きく影響し、一般に気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数は多くなります。

2014 年の夏は、太平洋高気圧の西への張り出しが弱く、「平成 26 年 8 月豪雨」の影響を受け、「北暑西冷」となりました。気温は、北海道から中国・四国にかけては平年並みか高く、四国や九州では低くなりました。日照時間は、北海道から関東は平年並みか多くなりましたが、東海から西は少なくなりました。降水量は、平年を上回った所が多く、特に、北海道や西日本の太平洋側では顕著でした。

花粉の飛散数の多い年と少ない年は交互に現れる傾向があります。前年(2014 年)は、西日本の一部を除き、全国的に花粉の飛散数は例年並みか例年より少なくなりました。2015 年は飛散数の少ない年(2014 年)の翌年にあたりますが、高温・多照・少雨などの花芽が多く形成される夏の気象条件が揃った所は少なく、特に九州や中国、四国は花芽の形成にとっては悪条件となったため、例年を大幅に上回ることはない見込みです。

しかし、前年の飛散数に比べると、東京では 2 倍以上、大阪は、およそ 1.5 倍になると予想されます。



花粉飛散数の推移(上: 東京千代田区、下: 大阪市 日本気象協会の観測による)

## ニュースリリース

### 2.地方概況

地方	花粉種別	飛散数		2014年夏の気象
		例年比 (地方平均値)	前年比 (地方平均値)	
北海道	シラカバ	やや多い (110%)	前年並 (100%)	気温 : 高い 日照時間: 多い 降水量 : かなり多い
東北	スギ ヒノキ	例年並 (100%)	非常に多い (320%)	気温 : 高い 日照時間: 平年並 降水量 : 多い
関東 甲信	スギ ヒノキ	例年並 (90%)	非常に多い (250%)	気温 : 高い 日照時間: 平年並 降水量 : 平年並
北陸	スギ ヒノキ	例年並 (90%)	非常に多い (200%)	気温 : 高い 日照時間: 少ない 降水量 : 多い
東海	スギ ヒノキ	例年並 (100%)	やや多い (140%)	気温 : 平年並 日照時間: 少ない 降水量 : 少ない
近畿	スギ ヒノキ	例年並 (90%)	やや多い (110%)	気温 : 平年並 日照時間: 少ない 降水量 : 多い
中国	スギ ヒノキ	やや少ない (70%)	やや少ない (80%)	気温 : 平年並 日照時間: かなり少ない 降水量 : 平年並
四国	スギ ヒノキ	少ない (60%)	非常に少ない (30%)	気温 : 低い 日照時間: かなり少ない 降水量 : かなり多い
九州	スギ ヒノキ	少ない (50%)	非常に少ない (30%)	気温 : 低い 日照時間: かなり少ない 降水量 : 多い

#### ※言葉の説明

- 【飛散数に関する言葉の説明】
- 非常に多い : 例年(前年)の200%以上
  - 多い : 例年(前年)の150%以上200%未満
  - やや多い : 例年(前年)の110%以上150%未満
  - 例年(前年)並 : 例年(前年)の90%以上110%未満
  - やや少ない : 例年(前年)の70%以上90%未満
  - 少ない : 例年(前年)の50%以上70%未満
  - 非常に少ない : 例年(前年)の50%未満

例年 : 過去10年(2005~2014年)の平均値

前年 : 2014年シーズン飛散数

#### 【2014年夏の気象に関する言葉の説明】

平年 : 1981~2010年の平均値

日本気象協会は、1950年の設立以来、60年以上にわたり、広域予報にとどまらない、より生活に身近な都道府県単位の気象予報やピンポイントの気象予報を、各メディアや自社メディアを通して発表している民間の団体です。国内の民間事業者としては最大の規模で、全国に支社や支店、事業所があり、天気予報のエキスパートである気象予報士265名(2014年7月現在)が多面的に業務に関わり、気象予報の業務に関しては24時間365日体制で最新の情報を発信しております。

また、その事業分野は気象予報にとどまらず、そのノウハウを生かし防災・減災、安全管理、また環境アセスメントや再生可能エネルギーに関する事業分野など、皆様の快適な日常生活や安全確保の支援や、産業活動の発展や環境の保全のために事業を展開しております。

[www.jwa.or.jp](http://www.jwa.or.jp)